

第6次吉川市総合振興計画基本構想原案 に対するご意見の内容とそれに対する市の考え方

第6次吉川市総合振興計画基本構想原案に対するパブリック・コメントを実施した結果、8件のご意見をいただきました。提出された貴重なご意見について十分に検討の上、それに対する市の考え方を次のとおり取りまとめましたのでお知らせします。

なお、「第6次吉川市総合振興計画基本構想原案に対するご意見の内容とそれに対する市の考え方」については、政策室の窓口、市民課ロビー市政情報コーナーでも閲覧できるようになっております。皆さまからの貴重なご意見ありがとうございました。

1 募集期間

令和3年6月7日（月曜日）～ 令和3年7月7日（水曜日）

2 意見提出状況

- (1) 提出者数 8名
- (2) 意見件数 8件
- (3) 意見提出方法の内訳

提出方法	件数
窓口持参	0件
郵便によるもの	1件
ファクシミリによるもの	0件
電子メールによるもの	4件
意見提出箱に投函されたもの	3件

ご提出していただいたご意見については、住所・氏名などの個人が特定され得る情報を除き、原則として全文そのまま転記したものを掲載しています。

問合わせ先 吉川市 政策室 企画担当

電話 048-982-9445（直通） FAX 048-981-5392

3 ご意見とご意見に対する市の考え方

No.	ご意見	ご意見に対する市の考え方
1	<p>吉川市に移り住み、約30年になります。正直なところ、吉川市に愛着を感じているかといえば残念ながらそうは言えません。吉川ってどんなところ、楽しいところ？と聞かれた時にいいところだよと自信を持って答えたい、そんな気持ちでこの原稿を書かせていただいています。</p> <p>広報6月号の将来構想を読みました。どこの市でも考えていることばかりが並んでいるという印象でした。吉川市をどんな市にしていきたいのかという、積極的な路線が見えてきません。</p> <p>私の考える吉川は水と緑が溢れる自然の豊かな街です。吉川は、中川、江戸川に囲まれています。またさくら通り沿いには用水路と川が流れていますし、他にも街のあちこちに小川や用水路が見られます。</p> <p>ところが、川のそばには人が集えるような場所がありません。さくら通り沿いの小川は汚染水が流れ、時折油のような浮遊物が漂っています（まるで昭和の初期のようです）折角の桜も台無しです。</p> <p>ぜひ川を整備し、その周辺に人が集まる楽しい場所を作って欲しいと思います。公園、運動場、お花見ができる場所、バーベキューができる場所などを作って欲しいと思います。</p> <p>そこには、子供からお年寄りまで、あらゆる世代にやさしい工夫が欲しいと思います。遊具はもちろん、大人の運動具、ベンチ、くつろげる屋内、豊かな緑が欲しいと思います。</p> <p>そんな場所が川と用水を中心にしてあちこちにあれば、三郷と越谷という商業的な地域の真ん中に位置する吉川は、自然豊かな街としてその存在価値が光るようになるのではないかと思います。</p>	<p>いただいたご意見の「水と緑が溢れる自然の豊かな街」という市のイメージにつきましては、吉川市の大きな魅力の一つであり、毎年実施している市民意識調査におきましても、住み心地を良いと感じる理由の上位に「自然環境の多さ」が挙げられています。また、基本構想原案の策定にあたって実施した市民参画でも同様のご意見を多数いただき、まちづくりの目標に「豊かな水と緑に恵まれた自然環境を保全する」という方向性を掲げております。</p> <p>また、水辺を活かした憩いの場につきましては、将来都市構想案においても、自然と触れ合うことのできる水辺空間を形成する「水辺レクリエーション地域」や「水辺交流拠点」を位置付けており、河川敷におけるスポーツ施設や自然環境を身近に感じられる憩いの場の形成をめざしてまいります。</p>
2	<p>まちづくりの基本理念、目標について異存はありません。</p> <p>人口目標については大きな問題があります。</p> <p>人口動態はH26にピークをうって、増加数が減少傾向にあるのは明らかです。推計のグラフは明らかに人口はまだ増えると言いたくて作った理由付けとしか思えません。</p> <p>小生、これまで新都市開発に携わり学んだことですが、風呂敷を広げすぎてもいいことは何もありません。大きすぎる人口フレームで基本計画、実施計画を作り失敗した例はそこら中にあります。</p> <p>計画はまず堅実にせいぜい74千人程度で、生活の質を高める計画をたてる。それがうまくいけば転入者が増えてくるかもしれない。その時に各活動エリアに余裕を設けておいて対応する。そのような考え方が必要だと思います。</p>	<p>基本構想原案の将来人口につきましては、直近5年間の人口動態を基にした推計と今後の吉川美南駅東口周辺地区の整備に伴う人口増加などを踏まえ、推計人口を76,000人と算出した上で、出生率の上昇や健康寿命の延伸による自然増、シティプロモーションや住みよさの向上などによる社会増につながる様々な施策を積極的に展開することにより、将来人口77,000人を目標として設定いたしました。</p> <p>計画の推進にあたりましては、将来人口だけにとらわれず、ご意見のとおり市民生活の質や満足度の向上を図る取組みを進め、その成果としての人口増加につなげてまいりたいと考えております。</p>
3	<p>新しい振興計画策定が、着々と進んでおり10年後の吉川市がどのように変貌していくのか、新計画が着実な成果を挙げ、まさに「幸せつながるみんなのまち」に成長することを願っている一市民です。</p>	

さて今回明らかにされた第6次吉川市総合振興計画について、その原案（基本構想）を読ませていただきました。

基本計画、実施計画の根幹となる吉川市が目指す将来都市像やまちづくり目標が定められるものですが、一市民として少し不安を感じてしまいましたので、パブリックコメントの機会をいただき多少の意見や質問をさせていただきたいと思います。

その不安とは、基本構想原案（令和3年6月）を読ませていただきましたが「10年後の吉川市が具体的にどのようなのか・・・」に、全くイメージがわからないということです。

私の感想を説明します。

全30ページの資料のうち23ページが背景や統計資料の記述です。24ページから行政各部門の理念が記載され令和3年の人口73,000人余りが10年後77,000人と4,000人増えるとのこと。

構想の記述は項目ごとに数行、わずか2ページです。最終ページに将来都市構想図が示されていますが、前第5次総合振興計画と大差ありません。私だけの理解かもしれませんが、原案を読ませていただいた正直な感想です。

さて内容についての印象を書きます。

まず第2節吉川を取り巻く現状について。

人口の増加率は国の平均よりも県の増加率よりも高い、社会増は平成26年がピーク、老年人口は国平均より5%低い。農業従事者70歳以上が48%と異常に高い。工業は10年間変化なく、美南小の児童数は1校で吉川市全体の30%を占める。道路の舗装率が平成28年以来65%と変わらず、財政状況に大きな変化なし。土地利用に大きな変化がないが農地が減り雑種地が増加。こんなことを統計資料は言いたいのでしょうか？

第3節市民意識調査では、プラス評価が「自然環境」だがマイナス評価に「交通環境」が集中していること。

市の取り組みに「水の供給」や「子育て」にプラス評価も「道路環境や土地利用」などは評価が低くなっている。

さらに満足度と重要度の2次元比較で第2象限（重要度が高く満足度が低い）には「公共交通の充実」と「道路整備」の2項目のみが入っている。

同じく第3節の市民意識調査で吉川市の住みごちで「悪い」と感じていることの上に「バスの便や交通の便」、「幹線道路や幹線道路の整備」をあげており明らかに交通インフラの貧弱さを指摘していると

思われます。一方「良い」と感じているもののトップに「自然環境の多さ」をあげているのですが同じ項目が「悪い」の中にもあるということはどういうことでしょうか。市民の意識は水田を中心とする農地の広がりや身近な自然環境に置き換えているのではないのでしょうか。

良くも悪くも前計画期間中に他の周辺自治体で見たようなドラスチックな都市施設の変貌はなかったということを感じているのは私だけでしょうか。

意見1 せっかく30ページのうち18ページを費やして吉川市を取り巻く現状を記述されたのですから、そこから導かれる課題、市としての見解を明らかにする章が必要ではないでしょうか。

意見2 第3章1節の将来像に異論はありませんが、第2節基本理念では吉川市を取り巻く現状を分析評価し市として抽出・指摘した課題に言及し、その課題解決のための方向性を示すべきではないでしょうか。

意見3 第3節まちづくりの目標はわかりますがそれを実現するためにどのような政策が導かれるのかよくわかりません。実施計画では政策が示されるわけですから、どのような目標に到達しようとするのか、それぞれの部門での重点政策を示すべきではないでしょうか。

最終30ページに都市構想図が示されています。同図は前第5次振興計画にも示されており、計画をイメージできる象徴的な図です。土地利用についての地域指定図であり前計画の構想図とほとんど変わりませんが、細かく見ると異なっているところもあります。

そこで、いくつかお尋ねいたします。

質問事項1 一つは中央部を貫く主要幹線道路の形状。旭地区テクノポリス周辺から常磐高速道路に向

意見1 原案では、第5次総合振興計画によるまちづくりを進めてきた結果として、吉川市の現状の一部を原案の第2章の計画策定の背景として掲載いたしました。また、第5次の現時点における総括として、基礎調査報告書では第8章にて現状認識と展望についてまちづくりの目標毎に示しておりますが、今後策定する前期基本計画においても改めて施策毎に現状と課題をお示しいたします。

意見2 基本理念は、まちづくりを進める上での基本的な考え方であることから、これまでの吉川市が進めてきたまちづくりや社会潮流を十分に踏まえるとともに、市民参画の中でいただいたご意見を踏まえ、今回の原案を作成いたしました。

具体的には、「市民の幸福感」や「協働の推進によるまちづくり」については、特に第5次から継承すべきものと捉え、多様性、包摂性、持続可能性といった社会潮流を踏まえながら、市民の方からご意見をいただいた「誇れるまち」を次世代につないでいくという考えを反映いたしました。ご指摘の課題解決の方向性につきましては、まちづくりの目標に大きな方向性を掲げ、今後策定する前期基本計画において各施策の方向性をお示しいたします。

意見3 今後、基本構想を踏まえて作成する5年毎の基本計画において、具体的な取り組みの方向性と重点を置くテーマをお示しする予定です。

質問事項1 原案の将来都市構想図につきましては、第5次総合振興計画を継承しつつ、長期的な視点に立つ

かうこの道路はまさに構想上のものと思いますが、幹線道路の形状が、第五次計画に示されたものと微妙に変化しています。それと「産業まちづくり地域」エリアの微妙な違い。「産業振興拠点」と呼称も変化していますが、従前の産業まちづくりエリアより拡張しているように見えます。これらの相違には新たな振興計画でどのような狙いや意図が含まれているのでしょうか。

質問事項2 もう一つは、総合振興計画の個別計画に位置づけられる三輪野江地域を対象とした吉川市農業パーク構想が公表されましたが、こちらの計画では当該エリアを3つに区分しています。微妙に拡張した総合振興計画での土地利用図と農業パーク構想の土地利用図とでは相違があるのでしょうか。

質問事項3 周辺自治体とりわけ三郷市との連携をどのように考えているのでしょうか。吉川市の交通インフラは南縁側の市境を超えて三郷市側に呑み込まれています。車や人の往来、土地利用の連続性など三郷市との連携なしに経済効果を享受できないと考えますが市のお考えはいかがでしょうか。

最後に、今後10年間の計画ということであり、いくつか試案を申し上げたいと思います。

第5次総合振興計画の成果について、僭越ながら一市民としての印象を申し上げるなら、実現はままたらなかったのではないかと考えています。

要因は、さまざま考えられますが、計画の大要が経済成長や社会情勢の変化に対応できず、市の政策にもミスマッチがあったのではないかと考えます。

交通インフラの整備に関して言えば、前総合振興計画の計画期間中越谷市では新4号バイパスの整備、三郷市では外郭環状線の整備、流山市では都市軸道路の整備が行われるなど、市の中心部を通る基幹的な

た市域全体の将来の土地利用や道路網などの大きな方向性を示しております。

ご指摘の道路網の構想における変化につきましては、円滑な交通流動や既存道路の活用、現在の土地利用などを考慮し、構想段階の路線の線形について一部見直しを行っております。

また、三輪野江地区の「産業系まちづくり地域」につきましては、三郷料金所スマートインターチェンジのフルインター化を見据えた区域の見直しを行うとともに、「産業振興拠点」として位置付け、広域的な交通利便性の高い地域として、新たな工業地の整備や農業施設、観光レクリエーション施設の整備など多様な産業の誘導を図り、産業振興の拠点をめざすという方向性を示したものです。

質問事項2 原案の三輪野江地域の「産業系まちづくり地域」における拡張部分につきましては、上述のとおり三郷料金所スマートインターチェンジのフルインター化を見据えた見直しによるものです。「農業パーク構想(素案)」等で地域の方々にお示ししている3つのエリアにつきましては、今回の原案の将来都市構想図では区分せずに、地域内の全体的な方向性を示しております。

質問事項3 ご指摘のとおりまちづくりの推進にあたっては、隣接市町との連携は重要であると認識しております。基本構想原案におきましても、近隣市町の将来都市構想などを踏まえ策定を行ったところでございますが、今後策定する基本計画におきましても、都市間の連携に関する施策を示してまいりたいと考えております。

なお、三郷料金所スマートインターチェンジ周辺のまちづくりにつきましては、三郷市と情報共有を行いながら、意見交換などを行っているところでございます。

流通資源が形成されていました。これらがそれぞれの市における経済効果に与えたインパクトは大きかったと考えられますが、吉川市においては、このようなインパクトとなる交通インフラの整備はされず、経済効果も享受できなかったと考えます。

吉川市を俯瞰すると常磐高速があり料金所やスマートインターがあるものの、これらはほぼ三郷市側にあり十分な恩恵が受けられず、武蔵野線は市の南縁が通過エリアで以前は吉川駅があるだけ。ようやく吉川美南駅が開設された幸運を生かし、駅東口の開発に着手はされていますが、現在の状況では吉川市全体に及ぼす効果は限定的ではないかと考えます。

提案1 そこで私の提案の一つは、これから策定される総合振興計画に一本の軸を通していただきたいということです。まちづくりの基本理念、「幸福実感」、「共に生き、創る」、「未来に誇れるまち」となるべき吉川とするための計画にすることです。

計画の基本フレーム、将来都市構想に「都市軸を」の構想が示されています。

吉川市をとりまく現状の記述から、課題として位置付けるべき柱についての提案です。これはまた満足度・重要度の2次元比較から炙り出された課題でもあります。

素案には「都市軸」というキーワードの説明があります。まさにこの都市軸を吉川市の中央に構築するという点を重点にするべきではないかということです。

吉川市の空間構成要素のなかに中央のライン、これを構築すること。幸い第5次の土地利用図にも第6次の土地利用図にもイメージとして吉川市の南北に走る主要幹線道路が示されています。他の幹線道路については既存の道路形から推測できますが中央を走る南北道路は架空の図になってしまっています。

しかし吉川市の意思としては中央を貫通する都市軸が重要な施設であると認識されていたのではないかと考えます。

残念なことに、この道路整備については今回の第6次振興計画においても計画の具体的言及はありません。

現在、東西に走る幹線道路はいくつかありますが、これらを結ぶ南北縦断道路「吉川のバックボーンとなる縦断道路」を中央に建設する。これこそ吉川市経済発展の起爆剤となりうる大計画になるのではないのでしょうか。

とりわけ道路幅員は大きな規格のものとし、緊急時の活用も可能とする発想を持つこと。さらには吉川市の弱点である水害対策など防災上の機能を持たせること。また江戸川および中川を横切る東西幹線道路が抱える渋滞の解消を企図すること。

提案1 ご提案のとおり、市の中央部に骨格となる都市軸の位置付けが必要であると認識しており、第5次総合振興計画を継承するとともに、三郷市との整合を図り、市の中央部を縦断する主要幹線道路を位置付けております。

一方で、このような主要幹線道路等の整備につきましては、多大な事業費と長期間を要することから、構想段階である路線につきましては、既存道路を最大限に活用した線形の中で、関連する道路整備や交通状況等を考慮しながら、計画的かつ効果的な整備を推進する必要があると考えております。

そして経済の大動脈に嵩上げするため常磐高速道路に接続し、東は東埼玉道路、北は農免道路を經由して圏央道に結ぶという発想が必要だと思えます。さらに高速の南に下ると、三郷市がすでに市を縦断する三郷中央道路を開通させています。この北端は草加流山線に接続しており、この道路と一体化するだけで吉川市、三郷市を縦断する大動脈が完成します。

そして何よりも大消費地東京からわずか25キロ圏内にありながら、その経済効果を享受できなかった歴史をガラリと変貌させる期待感を醸成すること。大規模農業経営や多面的農地活用の可能性拡大などに結びつけることも可能となるでしょう。言うまでもなく、この提案の課題は周辺自治体とりわけ三郷市との連携を綿密にすることが要になります。

提案2 もう一つの提案があります。

それは第一の提案の南端の開発です。スマートインターのフルインター化により周辺の交通環境は一変することになります。しかもここは三郷料金所の周辺エリアであり、全ての車両の速度が減速する地点でもあります。この地域をサービスエリアとして活用することで、地域経済発展のキーエリアとして位置付けられる大きな構想を打ち出したらいかがでしょう。

市の振興計画に含まれる個別計画では、周辺の三輪野江地域を対象とした吉川市農業パーク構想が示されています。この計画には道の駅をつくる計画も含まれていますが、道の駅とサービスエリアを融合し一般道からの利用も可能な商業エリアを構想したらいかがでしょう。

単独の計画では受けるメリットも少なく、せっかくのスマートインターの経済効果は小さなものになってしまいます。南には新流山橋から都市軸道路が接続し、将来的には中川を超えて東埼玉道路に接続されるはずですが。

東西を結ぶ大動脈となる都市軸道路。南北に吉川市のバックボーンとなる高規格道路の建設を構想する。

この二つの結節点となるスマートインターエリアに大規模なサービスエリアの建設を構想できれば、これまででない大計画になるのではないかと考えます。

何年か前の新聞に、外環自動車道の八潮市近辺に大規模なサービスエリアを建設するニュースがあったように思いますが、その後進展を聞いていません。(パーキングエリアの整備計画になっているようです。)常磐道、外環道の埼玉県東南部エリアには、サービスエリア建設の需要が高いと思われますし、その誘致は大きな経済的果実を手に入れることになるのですから吉川市が緻密な計画を策定し手を挙げる機会といえるのではないのでしょうか。

基本構想にある理念を実現するための具体的な目標として、振興計画に明確な実施目標が示され、その

提案2 ご提案の三郷料金所スマートインターチェンジ周辺につきましては、広域的な交通利便性が高まる地域であることから、原案の将来都市構想において、「産業系まちづくり地域」に位置付けるとともに、「産業振興拠点」を置く案としております。これらの「産業」は、農業だけでなく多様な産業を想定しており、ご提案の商業的な要素も含む内容としておりますので、八潮市などの様々な事例の研究を行いながら、社会経済情勢や民間企業の動向等の把握に努め、魅力ある地域づくりを検討してまいります。

	<p>具体的な性格や機能が明確化されれば、これまでにない斬新な計画になるでしょう。</p> <p>その実現性が期待され多くの市民に支持されるのではないかと確信しています。 以上。</p>	
4	<p>吉川市の街作りにかかせないのは、経済産業を発展させることが市民が住みやすく豊かな街につながると思います。</p> <p>まず、都県市 20km 内の吉川中心部に 100m 道路を作ることで、住宅、工場、商店、各々が発展し、公園や大型商業施設などの開発につながるのではないかと思います。</p> <p>また、吉川には駅が 2 つあり、吉川駅前にも吉川美南駅前のような高層マンションの建設ができるよう用途地域の変更をすることで、若年層の人口が増加するのではないかと思います。</p> <p>最後に、吉川インターチェンジが 3 年以内に上りと下りができるため、三郷と吉川市で農商工の連携により、大手メーカーや工場、倉庫、商店など仕事場を増やすことにより市民の財源にもつながるのではないかと考えます。今後の発展を期待致します。</p>	<p>ご提案の幅員 100メートルの道路整備につきましては、実現は困難であると考えておりますが、市の中央部に骨格となる道路の位置付けが必要であると認識しており、第5次総合振興計画を継承するとともに、三郷市との整合を図り、市の中央部を縦断する主要幹線道路を原案の将来都市構想図に位置付けております。</p> <p>また、高速道路インターチェンジ付近の広域的な交通利便性の高い地域においては、「産業系まちづくり地域」として位置付け、新たな工業地の整備や農業施設、観光レクリエーション施設の整備など多様な産業の誘導を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>なお、吉川駅前につきましては、吉川美南駅周辺と同規模のマンションが建築できる用途地域となっております。</p>
5	<p>基本人口 77,000 人の将来としては、前回の計画より上方修正がされていますが</p> <p>都心から 25 キロ圏の吉川市に於いては、将来都市構想の見直しにより転入者の増加を図りつつ転出者減少対策により一層の増加が可能かと思われる。</p> <p>将来都市構想では、隣接している越谷市、三郷市の著しい発展や総合振興計画を見る限り吉川市は原案以上の意欲的な構想が求められる。</p> <p>私の知人で県外居住者が隣接するそれらの行政区域から吉川市に入ると、環境の違いに大きな驚きをしていたのが印象的でした。</p> <p>転出、転入対策としては、私の居住地である「農地及び集落地域」での現状や将来リスクを交えながら意見させていただきます。</p> <p>吉川市は、市街化区域以外の調整区域では一部を除くほとんどが農業振興地域で有り文字通り農業振興が図られる優良な立地、環境のはずですが集団性や効率性が劣化する農地についても含まれており、農業基盤でもある水路の整備(メンテナンス)が長い営農経験からほとんどされていない状況で放置されていて水路の崩壊が発生している。</p> <p>又、集落や農家世帯の少子高齢化による急速な離農(耕作の委託も含む)により将来は限られた農業者や集落世帯のみとなることが容易に推測される。</p> <p>限られた農業受託者による効率性のある営農の観点からは、更なる集約された優良な圃場が求められることから、全ての農用地のメンテナンスや集約が現実的に不可能であるので、集約できる農地とそれ以外</p>	<p>はじめに、基本構想原案の将来人口につきましては、直近 5 年間の人口動態を基にした推計と今後の吉川美南駅東口周辺地域の整備に伴う人口増加などを踏まえ、推計人口を 76,000 人と算出した上で、総合振興計画の推進により様々な施策を積極的に展開し、将来人口 77,000 人を目標としてめざすというものでございます。</p> <p>全国的に少子高齢化に伴う人口の自然減が見込まれる中において、人口増加率で見た場合には、近隣の越谷市や三郷市よりも積極的な設定となっており、まちの魅力や住みよさの向上に努め、ご指摘の転入増や転出減による社会増を図るとともに、出生率の上昇や健康寿命の延伸に取り組み、将来人口をめざしてまいります。</p> <p>次に、農地につきましては、市では、農業者の方々と意見交換をしながら、可能な限り農業基盤の整備や農業経営の支援に取り組んでいますが、ご指摘のとおりそれぞれの営農環境には違いがあるとともに、高齢化や後継者不足などから営農が継続できず、農地の管理に関するご相談も増えている状況となっております。他方、ご指摘の農業以外の利用につきましては、厳格な法規制があることや全国的な人口減少時代の中で国や県においても住宅地等の形成を抑制していることから、大変難しい取り組みであると認識しております。</p> <p>農業を取り巻く課題は少なくありませんが、農業は吉川市が誇る産業であることから、引き続き担い手の確保と貴重な農地の保全に努め、関係機関との連携を図りながら農業振興策に取り組んでまいります。</p> <p>次に、用途地域につきましては、市街化区域全体のバランスや地域の特性などを踏まえ、現時点において適切に指定しているものと考えておりますが、土地利用の状況や社会状況が大きく変化したときは、地域住民などの意向を踏まえ、必要な見直しを検討してまいりたいと考えております。</p> <p>ご指摘の工業地につきましては、緩衝帯の整備や用途地域の変更などによるゾーニングの予定はございません</p>

<p>の用途の現実的な選別をする時期(既にリミットと考える)であり、埼玉県及び関東農政局と協議すべきと考える。</p> <p>現在並びに将来に於いても現状のままの政策であるならば、三輪野江小学校区、旭小学校区内では、少子化による学校の維持が危ぶまれるし、若年層が親元から離れ地区外への居住が一層加速していくものと考えられる。</p> <p>この状況からの将来は、両親2人の世帯が将来は1人となりいずれは、空き家となりその後の相続では、相続財産の処分が現実的に不可能に近いので、宅地を含めた農地の相続放棄が多発することとなる。(一部では現実に発生している)</p> <p>これらによれば、いわゆる限界集落(地域コミュニティの崩壊)が吉川市内で多発すると想定される。これらの解決策の一つとして既存集落の再構築であり特には、集落内の農地については、農地以外の利用の規制緩和をすることで、自然環境と調和した良質な住宅等の設置が可能であり、まさに「コロナ禍」の時代での住まいの考え方の変化に対応できることと考えられ、吉川市の立地であれば十分に需要はあると考えられ、集落地域の子弟による自然な世帯増加も可能である。</p> <p>又、現在の市街化区域内の用途地域の段階的なゾーニングの設定により急激な地域間格差等の是正も可能となるので検討されたい。</p> <p>具体的には、工業専用地域の隣接地の農用地からの都市公園や防災公園などの緩衝地帯の設定(この工専地域は様々ないわゆる公害等の規制が緩和ないし除外されており夜通し稼働していることの騒音や臭気もあり劣悪な住環境である、まして優良農地としての営農は甚だしい)や用途地域(地区計画等)のゾーニングが必要で有る。</p> <p>将来都市構想の原案では、吉川市の将来は近隣市町からは著しく劣後すると思われる。(取り残されないか心配している)</p> <p>現在の市街地形成の街づくりと合わせ、三郷市からの主要幹線道路の早期実現と産業立地や戦略的な街づくり構想を望みます。近隣市町よりは、行政面積が大きく大変かと思われませんが、吉川市は都心からのアクセスから残された優れた立地でありますので、明るい将来構想実現に向けた計画策定を期待しておりますし、出来ることがありましたら行動したいと考えています。</p>	<p>が、引き続き、事業者に対しまして、周辺環境への配慮を働きかけてまいります。</p> <p>最後に、三郷市からの主要幹線道路の早期実現等につきましては、幹線道路の整備には多額の費用や多くの時間を要することから課題の多い事業ですが、市内の他の道路を含めて計画的な整備を進め、ご指摘の都心近郊という好立地を生かした都市づくりをめざしてまいります。</p>
<p>6 ○東埼玉道路の工事が始まっている事から、国や県に対していっそうの陳情を各方面に働きかけてほしい。</p>	<p>○東埼玉道路の整備につきましては、具体的な事業化が示されたことから吉川市内へのアクセス道路を含めた計</p>

	<p>○東埼玉テクノポリスとその周辺は市民が豊かになるようあきらめないでできるだけ多くの工場を誘致して工業団地を作ってほしい。そのためには、農林調整をこり押ししてでも前に進めてほしい。</p>	<p>画的な整備について、国や県と協議を進めてまいります。</p> <p>○東埼玉テクノポリスにつきましては、引き続き拡張に向けて埼玉県や関係機関との情報交換などに取り組んでまいります。</p>
7	<p>吉川市を南北に縦貫する、100m 道路を完成させること。(別紙道路計画図を参照下さい)</p> <p>起点は、スマートインターが、フル化されることが、確定した、この機会を逃がさず、これを基点として企画すべきである。これが吉川市発展の起爆材となることは、必定であり、この 100m 道路沿線に住宅、工場、倉庫等が建設され、雇用が創出されれば、吉川市は一変する。そして、この沿線上にある旭小学校、市立体育館、東中学校、三輪野江小学校等の公共施設のフル活用をすべきであり、勿論税収が増大し市の財政が豊かになることは、当然であります。</p>	<p>ご提案の幅員100メートルの道路整備につきましては、実現は困難であると考えておりますが、市の中央部に骨格となる道路の位置付けが必要であると認識しており、第5次総合振興計画を継承するとともに、三郷市との整合を図り、市の中央部を縦断する主要幹線道路を原案の将来都市構想図に位置付けております。</p> <p>また、高速道路インターチェンジ付近の広域的な交通便利性の高い地域においては、「産業系まちづくり地域」として位置付け、新たな工業地の整備や農業施設、観光レクリエーション施設の整備など多様な産業の誘導を図ってまいりたいと考えております。</p>
8	<p>振興計画と聞き、吉川市はどんなビジョンに向かって進むのか？とワクワクしながら読みましたが、3分の2は現状認識に留まり、基本構想に入ってもビジョンが見えませんでした。〈幸福実感〉と言っても個人個人で異なるものであり、〈誇れるまち〉というのも、市民が結果として吉川を誇れるかどうかで合って行政が掲げるべきものではないと思います。〈持続可能なまち〉とはどのようなまちを目指しているのかも見えない。国が言う施策の主語を書き換えたように思えました。第3節のまちづくりの目標にある〈私たちは、…〉という主語は行政ですか？市民なのでしょうか？ 〈安心と賑わいのまちづくり〉の中に「自助・共助・公助」とありますが、先ず「公」が出来ることを示し、共助・自助の方法を示して欲しい。</p> <p>東京にも近い吉川市には農地があるので、開発に囚われず農業を売りにする戦略を取るべきだと思います。やり方次第ではグリーンリカバリーを目指せるポテンシャルが大きいと思います。</p>	<p>基本構想につきましては、行政だけでなく市民の方や地域、団体や企業など吉川市に関わる全ての方々ともめざすべきものとして策定を進めています。このような中で、「幸福実感」につきましては、一人ひとり異なるものではございますが、子どもから高齢者まで様々な状況にある市民の方の声に耳を傾けながら一人ひとりの幸福実感をめざす、まちづくりの最終目標として掲げております。</p> <p>また、「誇れるまち」は、原案作成にあたり実施した「よしかわ若者会議」など市民参画手続きの中でいただいたご意見を反映させていただきました。ご意見のとおりまちづくりの結果として市民の方が感じるものでございますが、誰もが吉川市に愛着を持って、市外の方だけでなく次世代にも誇れるまちを吉川市に関わる全員で創っていかうとするものでございます。「持続可能なまち」につきましても、市民の方からご意見を多くいただいたものですが、行政といたしましても重要な考えであり、環境面、社会面そして経済面において持続可能なまちを次世代に引き継ごうとするものです。</p> <p>ご質問のまちづくりの目標における主語につきましては、将来都市像や基本理念と同様に「吉川市に関わるみんな」として案を作成しております。</p> <p>次に、「自助・共助・公助」につきましては、原案のまちづくりの目標では、それぞれの力が最大限に発揮されるよう、災害などの有事に対する対応力を備えていくという方向性を示し、今後策定する基本計画において、現状と課題を踏まえながら、具体的な取り組みをお示しいたします。</p> <p>最後に、農業につきましては、都心近郊の恵まれた農地を持ち、歴史と伝統に支えられた吉川市の農業は誇れるものであることから、市の大きな魅力としてまちづくりに活かしていきたいと考えております。</p>